



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：シナイ半島での治安悪化（報道まとめ）

シナイ半島では、2011年の政変以降治安が悪化し、現在に至るまで、武装勢力による治安部隊攻撃が散発的に発生している。2013年5月には警察官7人が、一時、拉致される事件が発生している。

エジプト軍が政治した後の動きでは、7月5日、エルアリーシュなどでの複数の襲撃で警察官5人、兵士1人が死亡している。7日には、エルアリーシュで、天然ガス・パイプラインが爆破された。同パイプラインが爆破されたのは2012年の7月以来である。9日には、半島北部の村で武装勢力の攻撃があり、死者2人、6人が負傷している。

7月4日には、「The Jamaat Ansar Bayt Al-Maqdis」名の組織が、イスラエル南部エイラートに2発のグラッド・ロケット弾を撃ち込んだと声明した。エイラートでは、爆発音は聞かれたがロケット弾の被害はなかった。イスラエル軍は、7月9日に、エイラートの北15キロでロケット弾の破片を発見している。シナイ半島側からエイラートに対するロケット弾攻撃は2013年では2回目になる。

ガザへの対策強化

半島のエジプト軍・警察は、ガザへ密輸規制を強化している。2013年2月中旬から、エジプト当局は、ガザへの地下トンネルに水を流し込む作戦を開始した。2月19日、ガザのハニーヤ「首相」は、通常の物資輸送が開始されるまでエジプト軍にトンネル破壊を中止するよう求めている。2月26日、エジプトの裁判所は、エジプト・ガザ境界にあるすべてのトンネルを破壊するよう命令した。3月9日英エコノミスト誌は、エジプトがガザのトンネルを破壊した結果、ガザに毎日2300トン密輸されていた物資は300トンに減少し、価格が上昇したと報道している。軍のトンネル封鎖作戦は、4月も継続された。3月中旬には、ガザに密輸されようとしていたエジプト軍制服の生地がエジプト当局に押収された。エジプト側は、偽の軍服を製造しているとの懸念を持ったが、パレスチナ側は子供用服の生地だと反論している。

7月5日、エジプト当局はガザのラファ境界を閉鎖した。同閉鎖は追って指示があるまで継続される。同閉鎖の結果、ガザに戻れないパレスチナ人らが増加したため、エジプト当局は7月9日から48時間だけ同境界を開放し、人の移動だけを認可している。

（中島主席研究員）